

平成20年度第1回薬学教育FD/IT活用研究委員会議事概要

- I. 日 時： 平成20年6月28日（土）午後3時から午後5時まで
II. 場 所： 北陸大学太陽ヶ丘キャンパス
III. 出席者： 河島委員長、黒澤委員、山村委員、大嶋委員、大鳥委員
井端事務局長、森下主幹

IV. 検討事項

1. 薬学教育FD/IT活用研究集会の報告

薬学教育FD/IT活用研究集会

テーマ 「薬学5・6年次教育を考える」 2008年3月実施の報告

- ① 基調講演及び一般講演内容の概要を紹介し、現在の薬学教育で最も問題となっている話題のうちの一つについて考えることができ、タイムリーな研究会を行うことができたことと研究集会を総括した。
- ② 出席委員により研究集会に関連して以下の旨の話し合いがあった。
 - ・ 基調講演での「5・6年次教育が国家試験対策のためとならないように・・・」との話を受け、今後の6年制薬科大学の在り方について、また、6年制薬学教育における「質の高い薬剤師」といわれるところの「質」とは一体どのようなものなのかについて率直な意見交換を行った。
 - ・ さまざまな薬学教育の問題点があるが、薬学教育発展のためには薬剤師を志す高校生を増やす必要がある。そのために薬剤師は医療の中でどのように活躍しているかをアピールし、その魅力を多くの人に知ってもらう必要がある。
事例として北陸大学はが、多くの人に薬剤師のあるべき姿を知ってもらうために制作した下記の番組が紹介された。

(7月26日16時～17時 BS朝日 放送 21紀の薬剤師のあるべき姿)

2. 今後の活動について

下記の提案を検討した。

- ① アドバンス学習における科目横断型の授業モデルとそのIT教材の作成
- ② 医療倫理等のSGL用のIT教材の作成
- ③ リスクマネージメントなど、ワークショップの材料に関するIT教材の作成

出席委員により意見を交換したところ、以下の旨の意見があった。

- 上記教材の作製は、課題の作成になってしまうので、本委員会の趣旨に当てはまりにくいのではないかと。むしろ、千葉大学で作成されたような遠隔地での実習支援システムを私情協で先に作るべきであった。
- 私情協のメリットは、大学間横断、企業との連携であり、さまざまな情報資産をアーカイブしていくことが私情協の活動目的の一つである。PBL教材の事例を集めてオープンにして新しい授業を考えていくことが必要である。
- 各大学で最も不足している情報は、薬局でのセルフメディケーションに関する教育のための

情報であり、一般用医薬品学についての教材・講師が不足している。したがって、患者、医師を交えて OTC の選択から受診勧告を行うまでのバーチャルシュミレーション教材の作成を行ってはどうか。

○病 院向けでなく OTC・サプリメントに関する科目横断型 PBL 教材となるシナリオを作ってはどうか。

3. 結論

上記の意見は提案の①に該当するので、本委員会では以下の活動を今後行っていくこととする。

セルフメディケーションにおける教育目標を作り、それらを実現するための教育モデルやプログラムとして情報技術を利用する。

セルフメディケーションに関する到達目標はモデルコアカリキュラムでも作成されていないので、私情協が提案する。さらに現場との連携により、社会の人たちのセルフメディケーションの意識を形成していくことを目標とする。

4. 次回委員会までの課題

- OTC・サプリメントで重要と考えられる疾患分野を8~10個程度を担当の委員がピックアップする。(7月7日までに事務局に連絡)
- ピックアップされた疾患分野に関する患者背景(通信販売薬の使用、ドーピング検査を考慮するなど)をまじえた OTC・サプリメントに関するセルフメディケーションの授業シナリオ(ラフデザイン可)を作成する。ただし、薬品は、商品名を使用せず一般名を使用することとする。
(各委員 次回委員会まで)

4. 次回の委員会

次回の委員会開催日 9月13日(土) 3時~5時 金城学院大学